

2018年10月12日

## 世界的な株価の急落について

10月10日（現地時間）の米国株式市場は、代表的とされるダウ30種平均株価が831.83ポイント（約3.1%）下落するなど大幅な株価下落の動きとなりました。

本日の国内株式市場でも連鎖的な株価の急落が観測されました。米国を震源とする株価急落が世界的に余波を広げる中、その背景について分析するとともに今後の動向について展望します。

### 1. 米国株式相場急落の背景

米国株式が10日に急落した直接的な原因は、以下に示した幾つかの複合的な要因が累積的に重なったためだと推測されます。

- (1) 2018年9月以降、F R B（米国の中央銀行に相当）による金利正常化スタンス、すなわち金融政策の引き締め・政策金利の引き上げに対する関心が市場関係者の間で高まっていたこと。
- (2) 2018年3月頃の底打ち以降、史上最高値を更新するなど堅調な環境が持続していたことから、需給面から利益確定目的の売りが出やすい環境であったこと。
- (3) 米中間の通商問題・貿易摩擦を巡る両国要人の発言などから、両国関係の悪化や関係諸国への悪影響を懸念する動きが活発化したこと。

### 2. 今後のグローバル株式市場の見通しについて

先に挙げた要因についての各見通しは以下の通りです。

- (1) 米国の長期金利は一時的に3.2%まで上昇したものの、米国内の賃金や物価は非常に安定していることから、今後も長期金利が3%を超えて上昇し続けることは想定しにくく、F R Bのパウエル議長を始め類似の認識が示されております。
- (2) 需給面の要因は、短期的な側面が強いものと考えられます。
- (3) 米中間の問題は、メディアによっては「貿易戦争」と表現するほど今年に入り何度か株式相場が大きく崩れる要因となっていますが、実際に米国経済や企業業績に与える悪影響は無視できるほど小さいものと分析しています。

以上を総合すると、短期的には需給要因も相俟って、株式市場は世界的に不安定な動きが続くと見込まれます。しかし、米国を始めとした好調な経済と企業業績に対する信頼感が揺らぐことはなく、遅くとも年内には、株式市場は世界的に緩やかな上昇基調に回帰すると見込まれます。

本資料は助言会社であるりそな銀行が作成したコメントに基づいて作成しています

以上

本資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします「投資信託目論見書(交付目論見書)」および一体としてお渡す「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。